原発やめようニュース
反原発自治体議員・市民連盟

NO.３４　２０２０年2月

反原発自治体議員・市民連盟
共同代表　佐藤英行(北海道岩内町議会議員)
野口英一郎(鹿児島市議会議員)
福士敬子(元東京都議会議員)
武笠紀子(元千葉県松戸市議会議員)

〒168-0072
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301
TEL/FAX 03-5936-0311
http://nonukesjapan.org/
郵便振替 00110-7-449067

３月川内原発、８月高浜原発が停止、関電原発マネー還流の追及へ

２０２０年は原発停止→老朽原発廃炉に向かうチャンス！

3月から特重施設の未完成な原発は停止

3.11以降必要となった安全対策費が高騰し、再生可能エネルギーのコストが下がる中で脱原発は世界の流れとなっています。オリンピックに向けて、「特定重大事故等対処施設（テロ対策施設）」が期限までに完成しない川内原発が3月に停止し、8月には高浜原発も停止します。これは老朽原発停止を廃炉にまでつなげるチャンスです。3月8日は、川内原発停止を機に、廃炉を求める全国集会が鹿児島市内で開催されます。ご参加ください。

関電の老朽原発再稼働は認められない

関西電力は、今年運転開始から45年の高浜1号と44年超えの2号、43年超えになる美浜3号の再稼動を準備しています。原発は不正なお金の還流がなければ動かせません。その典型が今回暴露された関電の原発マネーです。

昨年12月「関電の原発マネー不正還流を告発する会」は、関西電力役員の金品受領問題で、役員12人に対し3,272人の告発人で告発状を大阪地検に提出しました。司法の力で関電幹部の責任を明らかにし、お金にまみれた原発を止めましょう。

3.11で被災した原発再稼働の危険性

日本原電は、東日本大震災で被災し損傷した東海第二原発を再稼働すると発表しました。必要とされる安全対策工事費は、約3500億円。原電はその資金を用意できないため、うち東電が約２２００億円を、他の電力大手４社が残りを負担します。公的支援を受けながらも福島第一原発事故の被害者への賠償金を払わない東電です。許されるはずがありません。

また昨年11月27日原子力規制委員会は、東北電力女川原発2号機の再稼働に必要な審査書案を了承しました。3.11の被災原発としては東海第二原発に続き2基目。29mの最も高い防潮堤が建設中であり、対策費は現段階で当初の想定を超える3400億円に達しています。　　老朽原発

老朽原発の再稼働と新設を止め原発全廃へ

でしかも3.11で損傷している原発の再稼働には、立地自治体住民からも不安の声が出ています。東海原発30キロ圏５自治体のなかには反対の姿勢が見られます。原発の40年超え運転を阻み新設を止めれば、2033年には若狭湾から、2049年には全国から稼働する原発が無くなります。今年はそのスタートです。

3.11で被災し多数の損傷カ所がある女川原発。避難計画の不十分性が指摘され、安全対策費は3400億円にも

「3.11に耐えた原発」説は偽り！女川原発のトラブルは600カ所以上

日本原電に600億円支援する東北電力の女川原発を止めよう

女川原発は、福島第一原発と同じ沸騰水型原子炉です。柏崎刈羽原発が新潟県の了解が得られていない中で、沸騰水型原発では最初の再稼働となる可能性があります。

高さ約29m、全長約800mの防潮堤建設などの安全対策工事が終わる2020年度以降の再稼働を東北電力は目指しています。

女川原発は、「3.11に耐えた立派な原発」などと宣伝されていますがそれは偽りです。女川原発を襲った津波の高さは13m。原発は14.8mの高さに位置していましたが、建設してから1mも地盤沈下し、津波はわずか80cmのところにまで迫りました。それでも2号機には海水が侵入し、原子力建屋の原子炉熱交換器2台や冷却ポンプ等が水没。外部電源5系統のうち4系統が遮断されました。基準地震動（地震の最大の揺れ）を大きく超えたため、配線配管をはじめ原子炉建屋の破損で600件以上のトラブルが発生、紙一重で福島第一原発と同じ大事故を免れたのです。

立地自治体の石巻市と女川町では、マスコミの世論調査で、再稼働の賛否は拮抗しています。

30km圏5自治体の中では、12月13日に美里町議会が再稼働に反対する意見書を採択しています。現地の運動と連携した取り組みが課題です。

福島県自治体議会選挙でシンポ協力議員が全員当選　12月21日　交流会報告

福島原発事故で被害を受けた自治体議会選挙が昨年12月10日に実施されました。結果は、毎年「福島を忘れないシンポジウム」でお世話になっている菅野清一さんら川俣町議会議員や葛尾村の松本静男さん、大熊町の木幡ますみさんが見事当選を果たされました。木幡さんはこれまで1位で当選してきた東電代表候補をおさえてのトップ当選となり、原発事故で被害を受けた町民の期待を表す結果となりました。

昨年12月22日は、昨年のシンポジウムや現地視察の反省と当選祝いを兼ねた懇談会を、連盟事務局から6名、菅野清一川俣町議と渡邉計飯舘村議の参加で行いました。今年はオリンピック、パラリンピックの合間の8月22日・23日に開催することも決定。また懇談では被害自治体の台風被害の深刻さや、現地の状況を無視した国の復興支援の酷さが話題になりました。

正面真ん中左が菅野清一議員、右が渡邉計議員

◎今からご予定ください　　記念講演・総会は誰でも参加できます

◎４月26日（日）13時半開会
反原発自治体議員・市民連盟第9回総会
たんぽぽ舎4階

★記念講演　青木美希さん
朝日新聞記者。
著書：地図から消される街 3.11後の「言ってはいけない真実」　（講談社現代新書）

◎５月23日（日）
議員・市民連盟関西ブロック第３回総会
13時半開会　高槻市市民会場予定

東京と関西で毎月1回運営委員会を開いています。誰でも参加できます。お問い合わせご参加ください。
東京：090-5497-4222
関西：090-6062-3764

11月23日～12月8日　老朽原発うごかすな！　リレーデモ・関電包囲集会報告

関西ブロック　高

2月8日の関電包囲集会をゴールに、「老朽原発うごかすな！リレーデモ」は、実に3カ月に及ぶ運動となりました。5年前のリレーデモよりも賛同者、賛同団体が増え、高浜町から関電本店までの本隊とは別に、滋賀や兵庫、名古屋、奈良、岐阜など各地で行動が行われました。

通過した12の自治体の首長と議会に、老朽原発の再稼働に反対を表明し、国に意見書の提出を求める申し入れを実施。残念ながら意見書の採択はありませんでしたが、高浜1・2号機、美浜3号機といった老朽原発の危険性をアピールすることができたのではないでしょうか。

反原発自治体議員・市民連盟関西ブロックは大阪府内のリレーデモの運営を担当。デモ当日は、沿道から好意的な反応も多く、ＪＲ高槻駅前では500枚のビラがすぐに無くなるなど、関電の裏金問題を機に、原発への関心が高まっている様子もうかがえました。

12月8日、ゴール地点関電本店前には全国から1,100人の参加があり、福島原発事故避難者や原発立地の市民など多くの参加者がマイクを持ち、老朽原発の運転延長阻止、全ての原発廃炉、避難者支援継続などを訴えました。

2020年に関電は老朽原発の再稼働を画策しており、すでに阻止のための次なる行動も提起されています。関西ブロックとして最大限、協力していきます。

関電包囲行動。関西ブロックから高木隆太高槻市議が発言　12／8

再稼働阻止ネット主催で関電東京支社に抗議行動も

高浜原発ゲート前からリレーデモ出発

11月23日、高浜原発から関西電力本店までをつなぐリレーデモが出発しました。この日は、高浜原発北ゲート前で120人が抗議の声を上げ、反原発自治体議員・市民連盟から関西の二木元高槻市議ら2人が参加。折からの関電不祥事に対する怒りのスピーチが次々なされ、関電に対する申し入れ書を高浜原発所員に手渡しました。高浜町役場までのデモには沿道から手を振る人、会釈をする人、「がんばって！」など声をかけてくれる人があり、関電の原発マネー問題への高浜町住民の怒りがわかりました。

高浜原発北ゲートで関電に木原壮林さんが申入れ。旗は関西ブロック二木元高槻市議

11月27日東海第二原発廃炉を求める
日本原電が署名６万３千筆を受けとる！

11月27日、秋葉原の原電本店前で「11.27廃炉デー大アクション」を実施。茨城県からは村上達也前東海村長、阿部功志東海村議、玉造純一県議はじめ４０名、全体で210名が参加しました。これまで原電は東海第二の再稼働に反対する署名や申入書の受けとりを全て拒否してきました。原電社長が新聞記者に「基本的には地元に最大限の誠意をもって対応している」と答えたことを受け、茨城県からの参加を伝え粘り強い折衝の結果、初めて日本原電は署名をうけとりました。これが翌日、報道されました。

11月11日 川内原発即時停止求める陳情行動

野口英一郎 鹿児島市議会議員

40年の寿命間近（1号機は後5年、2号機は後6年で寿命）で、特定重大事故等対処施設が未完成な状況にある川内原発の即時停止を求める陳情を、けしばさん、新城さんと共に薩摩川内市議会と鹿児島県議会に提出しました。

12月11日、総務委員会の審査が行われ、わずかな質疑で挙手少数により不採択となりました。委員会に所属する県民連合のうえやま県議のご協力で結果を確認しました。審査日時を提出者に一切知らせることなく、「不採択となりました」との結果ハガキだけを送りつけてきた鹿児島県議会の仕組みは変えたいものです。

川内原子力発電所の敷地では、今日も（おそらく）地下建造物となる特定重大事故等対処施設の突貫工事が昼夜を問わずに続けられています。工事作業にあたる方の賃金相場が、オリンピック関連の１.5倍とも言われて（原発周辺地域の飲食店街で作業員からの話し）います。

来年7月の鹿児島県知事選を控え、このところ地元の運動では運転期間20年延長問題を主な課題として動いています。テロ対策を理由に、内容は全く非公表で建設されている特重施設が未だ未完成な重大事態に、全国の議員の皆様から関心を持って陳情に賛同いただいたことは、本当にありがたく感じています。

そもそも特重施設は、テロによる重大事故だけを想定しているわけではなく、ありとあらゆるシビアアクシデントに備える基準物との認識がなかなか共有されていません。今年はオリンピックが開催、秋には薩摩川内市長選もあります。先ごろ現職の岩切市長は不出馬を公表しました。オリンピックの時期に原発が止まっているからといって、それをアンダーコントロールと強弁するのは無理があります。

規制委員会は、「設置期限までに定期検査のために発電を停止していることが文書などによって明らかな場合」は停止命令を発出しないこととしました。これは、規制委からこうした命令が出る前例を作りたくないからであろうと私は理解しています。どこまでも、動くことが前提の日本の原発。関電マネーの驚愕を受けて、九州電力も原子力発電所に関する金品の動きを調査し始めているようですが、明確な結果の公表が待ち望まれます。

薩摩川内市議会に陳情提出。右から新城区議、けしば区議、野口栄一郎鹿児島市議

市外、県外からの請願陳情は審議しな

鹿児島県議会と薩摩川内市議会は、県外・市外から提出された請願陳情は議員に回覧するだけで審議しません。県議会は野口議員を陳情代表者として受け付けました。薩摩川内市議会は地元の市民団体の松田勝美さんに「全国自治体議員の会」の事務局として陳情代表者を引き受けていただき、自治体議員352名の陳情が審議されました。松田さん、また賛成討論いただいた井上勝博市議に、感謝いたします。

8／22･23　第8回 福島を忘れない全国シンポジウム

- ８月２２日（土）シンポジウム　於）福島グリーパレスホテル
  オリンピック･パラリンピックで競技が行われる福島の放射能汚染の実態を問う！
- ８月２３日（日）福島第一原発被害自治体の現地視察
  被害自治体議員の案内で飯舘村や浪江町、いわき市･四ツ倉道の駅までバスで回ります

第７回福島を忘れない！
シンポジウムDVD 発売中

小出裕章氏講演が好評です